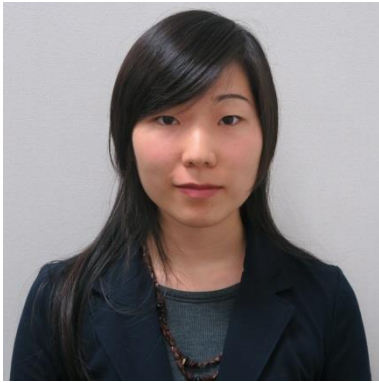


【奨 励 賞】・【審査員特別賞】



氏 名 成田 カリナ 美紀
(ナタ カナ ミキ)

国・地域 ブラジル 

在日期间 9 ヶ月

学 校 鹿児島大学

タイトル : 二つの祖国

初めまして、わたくしは去年、鹿児島県費留学生として、日本へ参りました、成田カリナ美紀と申します。日系ブラジル人で三世です。母国、ブラジルで児童学を専攻いたしました。この度、ブラジル鹿児島県人会を通じ留学の機会を与えてくださった鹿児島県庁の皆様へ深く感謝申し上げます。

祖父母の国、日本でスピーチコンテストに参加できるとは、夢にも思いませんでした。テーマを何にするか悩みましたが、ちょうど去年、ブラジルで日本移民110周年を迎えたところから、このテーマが浮かび上がりました。なぜならば、日系ブラジル人である自分自身のアイデンティティに関係あるからです。

日本へ来て感じたことですが、一言に日系人といっても、多くの人、特に若い世代の間では日本から海外移住がなぜ起こったのか、またその移民たちの海外での苦勞、業績、功績についてほとんど知られていないことがあり、なんとなく寂しい気持ちになりました。日系人とは、私のような皆さんと同じ顔、そして日本語の名前のある者のことを言いますが、日本人ではありません。私は、ブラジルで生まれた日本人移民の子孫です。これも、例えば、日本移民を受け入れた、ペルー、アルゼンチン、アメリカも同じです。日本へ来て間もないころ、こちらの人と言葉をかわしたところ、話し方、ちょっとした文化のちがいがから私が日本人ではないと気づき、中国人または韓国人に見られたことがしばしばありました。気持ちの上では差別であると見受けました。国籍を知ると、皆、不思議な表情をします。私たち日系人は、AでもBでもありません。A+Bを有する者であると考えていただきたいと思います。

日系人の現実には移民の歴史を知らない限り、想像がつかないと思います。ブラジルで生まれ、育ち、この国で教育を受けたのにも関わらず、顔が顔だけに自国でも、私がブラジル人であるとは信じがたい者もいるということもあります。「ポルトガル語が解りますか。」とか、「ポルトガル語が上手ですね。」とか、よく言われます。また、幼い頃から祖父母また両親から日本のことについて教えられたことをこちらの方にお話しす

ると、驚いたことに、「そんな言葉をなんで知っているんですか。」とか、「あなたと話していると昔を思い出します。」と、言われました。“もったいない” “感謝” “礼儀作法” “先祖を祭る大切さ” その他、ごく当たり前で自然なことだと思いますが、今の日本では、そのような価値観が失われつつあるのだろうかという疑問に思いました。

去年、訪日いたしまして、姉と先祖のお墓参りをしました。時を超え、自分のルーツに向かって合掌できたことの感動を一生忘れません。自国ブラジルでは、私たち日系人は正直で、礼儀正しく、勤勉であるとたたえられています。ブラジルは、日本の23倍もある広い国ですので、日系社会の誰もが私のように家庭で日本文化について教えられているとは限りません。中には、ただ日系人の顔をしているだけで、自分のルーツとの関係が希薄化している者も少なくありません。二つの祖国の間に立たされている者は、これからの世代に、それぞれの祖先、そして移民の歴史を伝えていくことが、日系人として重要な役割だと考えております。

夢であった祖父母の国を踏めましたことはこの上もない喜びであります。日本移民は、90日もかけて、未知の国へ海をわたり、はかりしれない苦勞に耐え忍び、子供たちを育てあげ、その中で日本民族である誇りが何であるかがこの長い旅路の中で伝えられてきました。現今、ブラジル社会で、日系人に対する高い評価はやはり日本移民の業績と功績のもとによるものだと思っております。私は、日本移民の子孫であることを誇りに思います。また、ブラジルも自分が生まれ育った広大な土地に恵まれ、大地の母を思わせるような素晴らしい国です。また、二つの祖国を有する重要さは、それを体験したものでなければ理解できないでしょう。

この度の、貴重な日本留学の経験を生かして、帰国後、ブラジル及び日系社会に貢献して参りたいと思っております。